

令和8年春の開学を目指す『武雄アジア大学(仮称)』について、設置・運営主体の学校法人旭学園から基本構想や完成予想図が発表されました。この基本構想をもとに令和6年10月に大学設置認可申請が行われます。また、市では、この基本構想を受け、大学がもたらすまちへの効果や大学設置の実現に向けた支援の考え方をまとめるとともに、2月27日に武雄市議会の「大学設置に関する特別委員会」でこの考え方を説明しました。今後、市民の皆さまからもご意見をいただきながら、大学設置に関して進めてまいります。

武雄アジア大学 設置構想

武雄アジア大学は、アジアなどの国際的な視野を持った地域人材の育成に取り組まれます。

武雄アジア大学基本構想 概要

設置・運営主体	学校法人旭学園	専攻コース	学部内に2コース設置
建設予定地	白岩体育館跡地(武雄町武雄4814番地)	【観光力・地域マネジメントコース(仮称)】	佐賀・九州の観光人、地域マネジメントに取り組む人々や企業とともに学びを展開し、新しい産業創出に挑むマネジメント人材を育成するコース。
開学時期	令和8年春(予定)	【韓国・メディアコンテンツコース(仮称)】	韓国のエンターテインメント産業を、日本や世界の産業と比較・分析し、人を感動させるコンテンツを創り出す力や企画・マネジメント力などを身に付けるコース。
定員	560人(1学年140人)		
学部名	東アジア地域共創学部(仮称)		
学部構想の柱			

◆地域と大学が一体となって、創造性豊かな学生を育てる。
◆国際的な視野を持ち、それを地域及び広域に寄与できる人材を育成する。
◆地域の産業と発展に貢献できる人材を育成する。

※大学設置認可にあたり構想内容が変更される場合があります。

武雄アジア大学 完成予想図

武雄アジア大学は、地域に開かれた大学として、市民が年齢関係なく学ぶことができ、キャンパスに気軽に訪れることができる大学を目指されます。



旭学園ホームページ



基本構想



完成予想図

市内への各種効果

経済波及効果 **約154.3億円**(開学前から25年間)

税収 **約3,300万円/年**(完成年度以降毎年)

※完成年度とは、4学年の学生が全て揃う年度を指す(令和11年度)

市内雇用数 **約250人/年**(完成年度以降毎年)

※在学アルバイト含む



☛ たけおポータル

詳しくは 企画政策課 大学設置支援室 ☎0954-23-9325

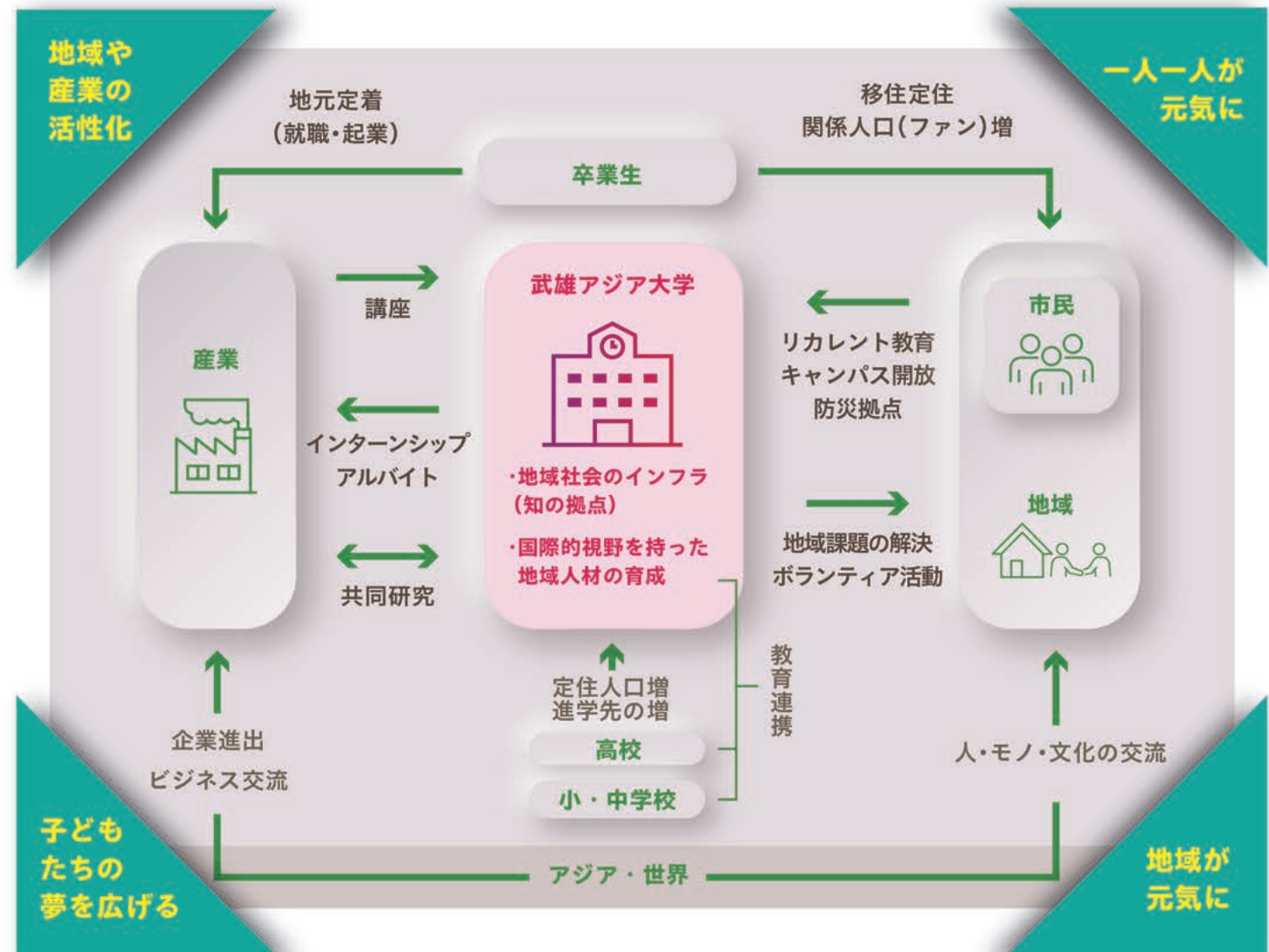
大学設置に関する市の考え

学びが人を育て、まちを育て、まちが豊かになる

- 1 学びたい人が「いつでも」「誰でも」学ぶことができる『学びあふれるまち』をつくります。
- 2 先人が築いてきた文化やまちの財産を活かし、世界に開いた『観光文化交流都市』をつくります。
- 3 市民や若者の力がこれまで以上に発揮され、一人ひとりが活躍する『活気ある豊かなまち』をつくります。

まちへの効果(イメージ図)

武雄アジア大学が『知の拠点』として地域社会のインフラになることで、まちに様々な効果もたらされることが期待されます。地域に若者が集い、国際的な視野を持った地域や産業に貢献できる人材が育成され、地元就職することで地域が活性化し、また、リカレント教育など、市民への学びの機会が多く提供され、アジア地域との交流も盛んになっていくことが考えられます。



支援について

施設への支援

大学の設置認可が出ることを条件に、大学設置に係る「施設整備費」「設計費」「備品費」について補助。

用地への支援

キャンパス用地として、旧白岩体育館跡地11,386㎡を無償・有償の期間を定めて貸し付け。

公共空間利用への支援

体育施設など公共空間の利用について、カリキュラム内での使用に係る料金を免除する等。

市の財政支援額は、補助金として約13億円を見込んでいます。

※キャンパス用地の貸付料として約2億円の収入を差し引き、**実質財政支援は約11億円**と見込んでいます。